

2008年(平成20年)2月22日(金) 日本経済新聞

私の履歴書

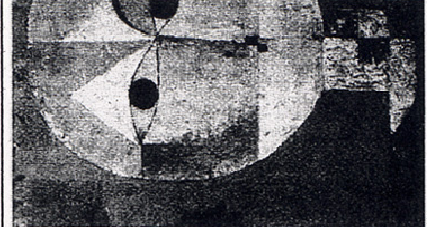
川淵三郎

一九九八年は日本が初めて 塚(現瀬戸)など五つのクラ

この時にも一つくらいは郷土の偉人を顕彰する人物記念館があるはずだ。全国的に羨ましくも、そこない人もいるが、人となりや生涯を伝える資料がそろそろ。私は三年前、全国の人物記念館を踏破する旅を始め、二百二十館以上を訪ねた。日本の成り立ちを知る。学生時代に梅津忠夫氏の「文明の生誕地」に強い感銘を受けた私は、壮年期のテーマとして、独自の発展を遂げた

文

化



レーの絵本の中で、線と色とをケンカさせている。絶妙な色と有機的な線。両者の出会いに注目する。この話を下書きに書き取り入れた。クレイは音楽一家に育ち、十二

といわれる日本の成り立ちを知る旅をしようと考えていた。そこで思いついたのが人物記念館だ。まず二〇〇五年の正月、大分県中津市に帰省した際に近くの福沢諭吉旧居・記念館を訪ねた。子供のころから何度も訪れているが、改めて真剣に見たことはなかった。併設の土産物店に「今も生涯の一日なり」と書かれた履歴の自伝があった。有限の人生で、一日一日を大切に生きていこうという心構えだろう。五十五歳を迎え、かなりの自身に引き付けて、深く感銘を受けた。自宅のある真北、美奈のある九州から始め、学者として講演などで地方に行

人物館見えた縁の糸

◇全国博物館以上を巡り、生き方と志に触れる旅◇

久恒 啓一



日に数館回ることもある。自分が日本の歴史をいかに知らなかったかが痛感されると同時に、本では得られないような立体的な把握も可能になり、次第に深い理解に到達していく美感がある。満鉄総裁などを務めた後藤新平は初代ボーイスカウト総裁として自治三

クラブの生き残り戦略を受け入れたが、サポーターの反発は想像をはるかに超えた。反対運動の一団が僕を訪ね「サポーターをつくった川淵さんがどうして僕らの生き

出張企業から外れると報じられた。V川崎とは九三年の調布への移転問題から角栄会合、河野廣二副社長は早大サッカー部の同期で、板橋的な苦

歌を残したと岩手県奥州市の記念館にある。「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう」として救いを求めぬよう、とこの言葉だ。一、岐阜県八幡町にある「日本のシンドラ」杉原千恵子記念館を訪ねると、歴々の顔が同じ言葉だった。旧満州(現中国東北部)ハルビン学院の校長を務めた後藤のもと、第二回生として学んだのが杉原だったのだ。こんなふうに歴史が私に接する機会が多くなり、私の世代は定年退職といつたところだが、歴史に名前を残す人物たちは、ここからもう一花咲かせるケースが多いことに気づき、動きたる。宮城県松島町に美術館のある藤田平は、既に名を得ていた五十六歳になつてネネアに渡り、一から仕事をやり直す。複数のゆかりの地に記念館のある徳島県は五十

コナアトとの通に気づいた結果だろう。地域密着を理念に放送種などはリークが一括管理する機会のあり方、全国区を目指す彼らの間には本質的に相いれないものが

を考えると、双葉山や滝澤本館など、かなりの数がある。この人の作。大分県の朝倉文夫記念館、東京の朝倉彫塑館を訪ねたところ、四目以上の肖像彫刻を制作したのは、明治の偉人の姿を残る後世に残そうという願いがあつたのだとわかった。昨年末、東京・八軒町にある人形師・辻村寿三郎の「ジュサフロ」館を訪ねたときのこと。売店で作品を展示して、いふ「サインしなさい」と声をかけられた。何しろ仕事場にして、いる本人だ。訪問記は、福沢の言葉「今日の生涯の一日なり」(http://plaza.rakut

守宜得た助言 真橋高

を考えると、双葉山や滝澤本館など、かなりの数がある。この人の作。大分県の朝倉文夫記念館、東京の朝倉彫塑館を訪ねたところ、四目以上の肖像彫刻を制作したのは、明治の偉人の姿を残る後世に残そうという願いがあつたのだとわかった。昨年末、東京・八軒町にある人形師・辻村寿三郎の「ジュサフロ」館を訪ねたときのこと。売店で作品を展示して、いふ「サインしなさい」と声をかけられた。何しろ仕事場にして、いる本人だ。訪問記は、福沢の言葉「今日の生涯の一日なり」(http://plaza.rakut

めず軸をぶささないためにも、もう一人の自分を「持つこと」の教えを受けた。通の手紙が届いた。「経営者はいきなりトップキアで走り出すスローなスタートでいい。必ずスピードを上げる時期が来るのだから」

「小豆」「日本

とてけん「あは」俺は「明日」「朝」忙しか「な」返し「かよ」「来」落ち「けん」キャ「れたら」はす

人物記念館の旅②－訪問記念館一覧

訪問記念館数: 221館

2004年（9館）

土門拳、斎藤茂吉、結城豊太郎、浜田広介、斎藤實、井上靖、三浦綾子、乃木 希典、坂本龍馬、

2005年（70館）

青木周蔵、松本清張、徳富蘆花、徳富蘇峰、宋慶齡(中国北京)、魯迅(中国北京)、立原道造、竹久夢二、森鷗外(東京)、会津八一、三木武夫、坪内逍遙、サトウハチロー、原敬、石川啄木、渡辺崋山、杉原千畝、堀辰雄、有島武郎、野上八重子、内村鑑三、池大雅、室生犀星、朝倉文夫(東京)、古賀政男、向井千秋、田山花袋、星野富弘、石原和三郎、長谷川町子、市川房枝、中村不折、樋口一葉、熊谷守一、葛飾北斎、向田邦子、与謝野晶子、宮尾登美子、志賀直哉、林芙美子、小津安二郎、鳩山一郎、岡本太郎、吉田茂、後藤新平、相田みつを、杉本苑子、澤田政廣、中山晋平、尾崎行雄、佐々木信綱、高野長英、新渡戸稲造、阿部次郎、古関裕而、久米正雄、山縣有朋、野口英世、司馬遼太郎、土井晩翠、白鳥省吾、吉野作造、三浦梅園、重光葵、佐藤義美、広瀬武夫、田能村竹田、滝廉太郎、朝倉文夫(大分)、福沢諭吉

2006年（61館）

長井勝一、浜口陽三、柳 宗悦、武者小路 実篤、鎌田三之助、阿部東庵、白凡金九(韓国)、黒田清輝、樋口一葉、森鷗外(東京)、正岡子規、芹沢銈介、大山康晴、新渡戸稲造・傳・十次郎、田中館愛橘、福田繁雄、羽仁もと子、藤沢周平、亀井南冥・昭陽、広瀬淡窓、双葉山定次、柳田國男、佐々木喜善、萬鉄五郎、ジョー・ブライス、宮城道雄、布施辰治、横山大観、大佛次郎、澤田美喜、池波正太郎、岩崎久弥、ナポレオン、草野心平、岡倉天心、山田かまち、石ノ森章太郎、白洲次郎・正子、渋谷栄一、高村光太郎(岩手)、宮沢賢治、寺山修司、太宰治、高村光太郎(企画展)、魯迅(中国紹興)、宮崎駿、山本有三、宇治山哲平、伊達政宗、坂本龍馬、グラバー、菅原道真、ド・ロ神父、遠藤周作、シーボルト、原阿佐緒、頭山満、北原白秋、大隈重信、佐野常民、棟方志功

2007年（76館）

北大路魯山人、南方熊楠、辻村寿三郎、藤田喬平、乃木希典、高杉晋作(下関)、吉田松陰、伊藤博文、桂太郎、木戸孝允、青木周弼、高杉晋作(萩)、澁澤龍彦(企画展)、山下清、マルク・シャガール、野上弥生子、吉丸一昌、高田屋嘉兵衛、北島三郎、土方歳三、石川啄木、金子鷗亭、川田龍吉、カール・レイモン、柳宗悦(企画展)、河井継之助、山本五十六、中島千波、高井鴻山、葛飾北斎、池田満寿夫、佐久間象山、東山 魁夷、高濱虚子、渥美清、小山敬三、島崎藤村、泉鏡花、五木寛之、徳田秋聲、室生犀星、松井秀喜、村上玄水、阿部次郎、清河八郎、高山樗牛、白瀬のぶ、石川達三、菅江真澄、石坂洋次郎、山下太郎、矢口高雄、安岡正篤、歌川広重、斎藤真一、最上徳内、夏目漱石、小泉八雲、徳富蘇峰・蘆花、横井小楠、島津源蔵、末川博、大河内伝次郎、池大雅、新島襄、平山郁夫、佐藤忠良、最澄、橋本閑雪、河井寛次郎、高村智恵子、扇畑忠雄、豊臣秀吉・加藤清正、森村宜稲、加藤唐九郎、小野道風

2008年（6館）

安宅英一(企画展)、大江雲沢、横山大観(企画展)、在原業平(企画展)、水戸斉昭、水戸光圀

人物記念館の旅③—人物記念館 地図

東北の訪問記念館数:60館 (宮城県 18館を含む)

